

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第85回

ウイキョウ



ウイキョウ（茴香）の学名が *Anethum foeniculum* と書かれていますが、現在は *Foeniculum vulgare* が正式な学名となっています。foenum は「小さな干し草」を意味し、vulgare は「普通の」という意味を持っています。

地中海沿岸が原産地で、明治の初期に渡来しました。セリ科に属する多年草で、草丈は1～2m、系状に分かれた葉をつけます。夏にかけて傘を開いたような花茎を伸ばし、小さな黄色花を多数開き、秋には分果が熟します。

果実は精油含量が高く、主成分はアネトールでその他モノテルペン類が多種含まれています。果実は90%以上がスパイスとして使用されますが、芳香性健胃薬として胃腸薬にも配合されます。

また、漢方では安中散に桂皮、茯苓、牡蠣、甘草、良姜、延胡索、縮砂等と共に茴香が配合され、胃に痛みが有る時の健胃薬として、また、去痰作用も期待できます。

本画の作者はFerdinand Vietzで、1800年初期の作品です。